

令和 6 年度 泉が丘中学校 学校評価書

1 教育目標（目指す生徒像含む）

（1）基本目標

人間尊重の精神を基盤に、個性豊かで情操に富んだ人間として、平和で民主的な社会の発展に貢献する生徒を育成する。

（2）具体目標（目指す生徒像）

- ・情操や感性が豊かで個性のある生徒
- ・自主的に学び創造性に富む生徒
- ・心身ともに健康で実践力のある生徒

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

- （1）あいさつができ、いじめのない、居がいのある学校を目指す。
- （2）自主性を尊重し、生徒や教職員の良さが十分に活かされる学校を目指す。
- （3）保護者や地域から信頼される、開かれた学校を目指す。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- （1）○体力の向上を図り、主体的に行動できる能力・態度の育成に努める。
- （2）○心豊かな人間性の育成に努める。【重点】
- （3） 確かな学力の定着を図り、学習意欲を高める授業の確立に努める。
- （4） 小中一貫教育と地域学校園の取組の円滑な推進に努める。
- （5） 持続可能な社会を目指し E S D を推進する。【重点】
- （6） 働き甲斐のある職場づくりの推進に努める。【重点】

【泉が丘地域学校園教育ビジョン】

望ましい人間関係をつくり、進んで学び合う児童生徒の育成
～ 学びの泉 おもいやりの泉 げんきの泉 ～

4 教育課程編成の方針

- （1）「第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画」等を踏まえ、本校教育目標が達成できるよう全職員の理解と協力によって編成する。
- （2）新中学校学習指導要領改訂のポイントである「社会に開かれた教育課程」「これからの時代に求められる資質・能力」「カリキュラムマネジメント」「主体的・対話的で深い学び」を踏まえる。
さらに、教科横断的な視点に立った資質・能力の育成を図るため、教育課程全体において、教科横断的な視点からの指導のねらいの具体化や、教科等間の指導の関連付けなどを推進する。
- （3）「G I G A スクール構想」推進に向けて1人1台端末の本格的な活用を積極的に進めていく。
- （4）生徒の調和のとれた育成を目指し、学校の実態及び生徒の心身の発達段階を十分に考慮する。
- （5）宇都宮市の小中一貫教育の趣旨を生かし、泉が丘地域学校園内の小学校と連携しながら、創意工夫を生かした特色ある教育、特色ある学校づくりを進めるような編成を行う。

5 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

(1) 学校運営

- ・専門職としての自覚を高め、常に組織的な対応に努める。
- ・子どもと向き合う時間を確保するために、校務の工夫改善及びスリム化を図る。
- ・教職員の時間管理を徹底し、勤務時間を意識した働き方を推進する。

(2) 学習指導

- 基礎・基本を確実に習得させ、それらを活用する力や、自分で考え判断し、表現する力を育成するとともに、目標を持ち、自ら学ぶ意欲を育む。
- ・総合的な学習の時間などで、E S Dの理念を生かした学習活動を取り入れる。

(3) 児童生徒指導

- 心の教育の充実により、自信や自己有用感、規範意識、思いやりを育成するとともに、たくましさを涵養する。
- ・不登校、いじめの未然防止を図るため教育相談を充実させるとともに、不登校の解消を図るため生徒個々の状況にあわせて柔軟に対応する。

(4) 健康（保健安全・食育）・体力

- 生涯にわたって心身ともに健康で安全な生活を送るための資質や能力を育成する。
- ・自己の体力の現状を具体的に把握させ、積極的に自己の体力を伸ばしていこうとする態度を育てる。

6 自己評価 A1～A20は市共通評価指標 B1～は学校評価指標(小・中学校共通、地域学校園共通を含む)

※「主な具体的な取組の方向性」には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所の下線を付ける。

第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画基本施策	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
1ー(1) 確かな学力を育む教育の推進	A1 生徒は、他者と協力したり、必要な情報を集めたりして考えるなど、主体的に学習に取り組んでいる。 【数値指標】 生徒肯定的回答 90%以上	・授業の中で、生徒が自分の意見を自由に発表できる機会や雰囲気を作り、思考力・判断力・表現力を育む。 ・授業の中で、タブレット端末の活用やグループ学習の機会を増やし、「共に考え合え、学び合える場」を計画的に設定し、主体的な学習態度を育む。	B	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答の割合は90.5%で、数値目標をわずかに上回った。 【次年度の方針】 ・生徒が自分の意見を自由に発表できる雰囲気づくりに更に力を入れる。 ・各教科の授業の中で、タブレット端末を活用した意見交換やグループ学習の機会を今年度以上に計画的に行う。
1ー(2) 豊かな心を育む教育の推進	A2 生徒は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 生徒肯定的回答 90%以上	・特別の教科道德で、学校行事と関連する内容の題材を取り上げ、人権尊重の心や思いやりの心を育む。 ・学校教育活動のあらゆる場面で、「 <u>相手がどのような気持ちなのか</u> 」を <u>考える力</u> 、「 <u>自分とは異なる考え方</u> 」を <u>受容できる力を重視し、様々な立場の人との共生への意識を高める。</u>	B	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答の割合は93.1%で、数値目標を3.1ポイント上回ったが、昨年度より1.0ポイント下降した。 【次年度の方針】 ・相手の気持ちを考え、共感できる力を身に付けさせると共に、常に感謝の気持ちが持てるような取組を、全ての学校教育活動に関連付けて実践する。 ・今年度と同様に全教員で特別の教科道德の授業に力を入れていく。
	A3 生徒は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 生徒肯定的回答 90%以上	・学習や学校行事、部活動に目標を立てて取り組ませ、振り返りを行わせることで、次への意欲を高めさせる。 ・ <u>目標実現に向けて努力することの大切さを、全教育活動を通して伝え、目標実現に向けて努力する生徒の姿を認める。</u> ・「キャリア・パスポート」の効果的な活用方法について、地域学校園内の小学校と連携を図りながら整備していく。	B	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答の割合は84.9%で、数値目標を5.1ポイント下回った。 【次年度の方針】 ・目標に向けて努力している過程を褒める機会や成功体験を意図的に増やし、大きな達成感や満足感を得られるようにし、自信を持って物事に取り組めるように支援していく。 ・「キャリア・パスポート」の効果的な活用方法についての研修会を設定する。

1ー(3) 健康で安全な生活を実現する力を育む教育の推進	A 4 生徒は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 生徒肯定的回答 90%以上	・生徒会専門委員会（保健・給食・安全・体育委員会）活動の活性化を図り、生徒の健康や安全に対する意識を高める。 ・<u>学級活動、給食指導、地域学校園お弁当の日等で栄養バランスが大切であることを理解させ、実践化していく。</u> ・<u>熱中症等の健康危害に関する情報をもとに、的確に判断し、行動できるように支援する。</u>	B 【達成状況】 ・生徒の肯定的回答の割合は 92.7%で、数値目標を 2.7 ポイント上回った。肯定的回答の割合は、2 年連続で上昇した。 【次年度の方針】 ・給食指導、お弁当の日を通して、食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けさせ、生涯にわたって健やかな心身と人間性を育むための基礎を培っていく。 ・熱中症等の健康危害に関する情報を速やかに発信し、生徒自らが情報をもとに的確に判断し、行動できるように支援していく。
1ー(4) 将来への希望と協働する力を育む教育の推進	A 5 生徒は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。 【数値指標】 生徒肯定的回答 90%以上	・学校行事や生徒会活動、部活動等において、<u>生徒の活躍する姿を称賛したり、内外に知らせることで、生徒一人一人に自信をもたせ、より積極的な活動が出るように促していく。</u>	B 【達成状況】 ・生徒の肯定的回答の割合は 89.0%で、数値目標を 1.0 ポイント下回った。 【次年度の方針】 ・学校行事や生徒会活動、部活動等において、活躍する姿のみならず、努力している過程を褒める機会を増やし、HPなどで内外に知らせることで、生徒一人一人に自信をもたせるような働きかけを行っていく。
2ー(1) グローバル社会に主体的に向き合い、郷土愛を醸成する教育の推進	A 6 生徒は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 生徒肯定的回答 80%以上	・授業で、教科書の言語教材を活用し、リスニングやスピーキングの練習を丁寧に指導し、様々な音調に慣れさせていく。 ・学校生活や修学旅行等で、A L T 等の外国人に積極的に英語で話しかけることができる態度を育成する。	B 【達成状況】 ・生徒の肯定的回答の割合は 75.4%で、数値目標を 4.6 ポイント下回った。 【次年度の方針】 ・英語の授業で生徒同士のやり取りがある場面を今年度以上に設定し、コミュニケーションの力が段階的に身につくような支援をしていく。 ・英語の授業以外の場面でも A L T を積極的に活用し、英語に触れる機会や環境を意図的に設けていく。
	A 7 児童生徒は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 生徒肯定的回答 80%以上	・社会科や理科、総合的な学習の時間で、宇都宮市の地域教材を扱い、地域社会への理解を深めさせる。 ・地域のボランティア活動や市の行事に積極的に参加させることで、地域社会や宇都宮市の良さに触れさせていく。	A 【達成状況】 ・生徒の肯定的回答の割合は 81.7%で、数値目標を 1.7 ポイント上回った。肯定的回答の割合は、2 年連続で上昇した。 【次年度の方針】 ・今年度以上に「宇都宮学」の授業を充実させ、宇都宮の「魅力」と「良さ」を発見させる。 ・地区コミュニティーセンターと連携し、各種ボランティア活動への参加機会を拡充し、地域社会への貢献と理解を深めさせる。
2ー(2) 情報社会と科学技術の進展に対応した教育の推進	A 8 生徒は、デジタル機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 生徒肯定的回答 80%以上	・各教科の授業で積極的に I C T 機器を活用するとともに、臨時の学年・学級休業時にも臨機応変の対応ができる体制を整える。 ・学校図書館を調べ学習のベースとして活用できるように、教育課程と関連付けて図書の整備を充実させる。	B 【達成状況】 ・生徒の肯定的回答の割合は 74.2%で、数値目標を 5.8 ポイント下回った。肯定的回答の割合は、2 年続けて下降した。 【次年度の方針】 ・各教科で積極的に I C T 機器を活用した授業を展開するとともに、I C T 支援員に生徒支援を協力してもらう体制を整備する。 ・図書館司書と連携し、授業等で電子書籍を有効活用できる環境整備を進める。 ・授業以外の教育活動において、図書館を有効活用できる環境整備を進める。

2-(3) 持続可能な社会の実現に向けた担い手を育む教育の推進	A9 生徒は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 生徒肯定的回答 80%以上	・持続可能な社会を目指しESDを推進する。 ・総合的な学習の時間を中心にESDの理念を生かした学習活動を取り入れ、世の中の課題と向き合いながら、日常生活の中で自分たちにできることを考え、実践できるようにする。	B 【達成状況】 ・生徒の肯定的回答の割合は76.6%で、数値目標を3.4ポイント下回った。 【次年度の方針】 ・総合的な学習の時間や生徒会活動を中心にESDの理念を取り入れた教育活動を展開し、日常生活の中で自分たちにできることから積極的に取り組んで行けるように支援する。
3-(1) インクルーシブ教育システムの充実に向けた特別支援教育の推進	A10 教職員は、特別な支援を必要とする生徒の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 教職員肯定的回答 市平均と同程度	・特別支援教育コーディネーターや教育相談担当、生徒指導主事を中心に、特別な支援を必要とする生徒に関する共通理解を図り、個々のニーズに応じた支援を行う。 ・個別の支援計画を作成し、保護者との合意形成に努め、かがやきルームや日本語教室の適正な運用を行うなど、合理的配慮を行う。	B 【達成状況】 ・教職員の肯定的回答の割合は78.6%で、市平均より18.9ポイント下回った。 【次年度の方針】 ・特別支援教育に関する研修の機会を設け、特別支援教育に対する共通理解を図ることに改めて取り組んでいく。 ・特別支援教育コーディネーターや教育相談担当、生徒指導主事を中心に、特別な支援を必要とする生徒に関する共通理解を図り、個々のニーズに応じた支援を行う。
3-(2) いじめ・不登校対策の充実	A11 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 生徒肯定的回答 90%以上 保護者肯定的回答 80%以上	・「いじめアンケート」や教育相談、宮っ子ダイアリー等も活用し、いじめの早期発見に努める。 ・特別の教科道德の授業や「いじめゼロ強調月間」を活用したり、日常生活の言動に注意を払い、いじめの未然防止に力を入れて行く。 ・教職員全体で組織的な取組を行い、自己肯定感や他者信頼感を育てていく。	B 【達成状況】 ・生徒の肯定的回答の割合は95.6%、保護者の肯定的回答の割合が82.6%で、生徒・保護者共に数値目標を上回った。 【次年度の方針】 ・教職員の共通理解のもと、日常生活の言動に注意を払い、特別の教科道德の授業や「いじめゼロ強調月間」も有効活用し、いじめの未然防止・早期発見に努めていく。
	A12 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 保護者肯定的回答 90%以上	・生徒が自己肯定感をもち、互いに認め合える受容的・共感的な雰囲気のある学級づくりを行っていく。 ・教育相談、Q-U調査、各種アンケート等を活用し、不適応傾向のある生徒の早期発見と早期対応に努める。	B 【達成状況】 ・保護者の肯定的回答の割合が90.6%で、数値目標をわずかに上回った。 【次年度の方針】 ・日頃から共感的な人間関係づくりに努め、自己有用感を味わわせながら、学校全体で課題を共有し、協働で問題解決にあたる。 ・教育相談、Q-U検査等を活用し、正しい情報を共有し、不適応傾向の生徒の早期発見と対応に努める。
3-(3) 外国人児童生徒等への適応支援の充実	A13 学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。 【数値指標】 保護者肯定的回答 80%以上 地域住民肯定的回答 80%以上	・学校行事や生徒会活動等を活用し、生徒が主体的に活動できる場面を意図的に設け、生徒が生き生きと活動できる雰囲気づくりに努める。 ・<u>級友の良さを認め合い、助け合える居心地の良い学級づくりに努める。</u>	B 【達成状況】 ・保護者の肯定的回答の割合が89.6%、地域住民の肯定的回答の割合が100%で、保護者・地域住民共に数値目標を大幅に上回った。 【次年度の方針】 ・学校行事や生徒会活動等を活用し、生徒が主体的に活動できる場面を拡充すると共に、生徒が生き生きと活動できる雰囲気づくりに努める。 ・生徒を褒める機会を増やし、生徒同士がお互いの良さを認め合える居心地の良い学級づくりを行う。
3-(4) 多様な教育的ニーズへの対応の強化			

4- (1) 教職員の資 質・能力の 向上	A14 教職員は、分かる授業 や生徒にきめ細かな指導 を行い、学力向上を図っ ている。 【数値指標】 生徒肯定的回答 90%以上	・教科・学年・学級の実態に応じて、 習熟度別学習や少人数学習、T・T による授業を適宜取り入れ、個に応 じた指導を行う。 ・ねらいの提示と振り返りを行うと ともに探求型の授業や言語活動の 充実を図り、主体的に学習に取り組 める授業を展開する。	B	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答の割合が94.1%で、 数値目標を4.1ポイント上回った。肯定 的割合は2年連続で上昇した。 【次年度の方針】 ・英語・数学を中心に、習熟度別学習や 少人数学習、T・Tによる授業を継続し、 個に応じた指導に力を入れて行く。 ・授業のねらいの提示と振り返りを行 うと共に探求型の授業や言語活動の充 実を図る。
4- (2) チーム力の 向上	A15 学校に関わる職員全員 がチームとなり、協力し て業務に取り組んでいる。 【数値指標】 教職員肯定的回答 市平均と同程度	・教職員間の信頼関係をより一層深 められるように、風通しの良い学校 風土づくりを進める。 ・教科部会や校務分掌部会を有効活 用し、連携・協力体制を整える。 ・教職員の業務改善を図るために、S C、MS、ALT等とのより一層の 連携・協力を行っていく。	B	【達成状況】 ・教職員の肯定的回答の割合は73.8% で、市平均より18.2ポイント下回った。 【次年度の方針】 ・教職員間の信頼関係をより一層深め、 教職員が一丸となって、生徒のより良い 成長を目指して教育にあたることができ る学校風土づくりに取り組む。
4- (3) 学校におけ る働き方改 革の推進	A16 勤務時間を意識して、 業務の効率化に取り組ん でいる。 【数値指標】 教職員肯定的回答 80%以上	・出退勤時間管理により、一人一人が 勤務時間を意識し、校務の効率的な 実施や計画的な処理に努める。 ・校務分掌関係データフォルダの再 整理を行い、全職員がポータルサイ トからすぐに活用し、校務を効率的 に処理できるシステム構築を進め る。 ・ミライムによる電子起案を有効活 用し、キャビネット内のデータを全 職員が有効活用できるようにする。	B	【達成状況】 ・教職員の肯定的回答の割合は83.3% で、数値目標をわずかに上回った。昨年 度より11.1ポイント上回った。 【次年度の方針】 ・軌道に乗ってきたミライムを活用し た出退勤管理、電子起案、キャビネット 内のデータ共有等を有効活用し、校務の 効率的な実施や計画的な処理に努める。
5- (1) 全市的な学 校運営・教 育活動の充 実	A17 学校は、「小中一貫教 育・地域学校園」の取組 を行っている。 【数値指標】 保護者肯定的回答 90%以上	・越戸せせらぎ通りや駅東公園清掃 美化活動の充実をはかるために、継 続して小学校との連携を図ってい く。 ・事務・図書館司書・養護教諭を中心 に、地域学校園相互の支援体制を充 実させる。 ・乗り入れ授業において、小学校との 連絡・調整を密にし、学習指導や生 徒指導に関する各部会の活動を活 性化する。	B	【達成状況】 ・保護者の肯定的回答の割合は、86.1% で、昨年度より3.7ポイント上回った。 しかし、数値目標を3.9ポイント下回っ た。 【次年度の方針】 ・小学校と連携しながら、あいさつ運動 や清掃美化活動等の継続と活動内容の 充実を図り、HPや各種だよりを通した 広報活動を進めていく。 ・小中一貫教育に関する各部会の連絡 調整を密にし、地域学校園相互の支援体 制を充実させていく。
5- (2) 主体性と独 自性を生か した学校経 営の推進 5- (3) 地域と連 携・協働し た学校づく りの推進	A18 学校は、家庭・地域・ 企業等と連携・協力して、 教育活動や学校運営の充 実を図っている。 【数値指標】 保護者肯定的回答 90%以上 地域住民肯定的回答 90%以上	・家庭や地域社会との連携を図り、各 種ボランティア活動に積極的に参 加させる。 ・地域学校協働活動推進員や地区コ ミュニティーセンターとの連携を 図り、学校支援ボランティアや地域 人材を活用した諸活動を推進する。 ・学校だよりや学校HP、地域協議会 だより等で、学校の取組や生徒の様 子などを発信する。	B	【達成状況】 ・保護者の肯定的回答の割合が86.1% で、数値目標を3.9ポイント下回った。 地域住民の肯定的回答の割合は、100% で、数値目標を10ポイント上回った。 【次年度の方針】 ・家庭や地域社会との連携を強化し、各 種ボランティアや地域の行事に積極的 に参加させる。 ・地域協議会や地区コミュニティーセ ンターとの連携を図り、地域人材を活用 した諸活動を推進する。 ・HPや各種だよりを通した広報活動 を進めていく

6-(1) 安全で快適な学校施設整備の推進	A19 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 保護者肯定的回答 90%以上 地域住民肯定的回答 90%以上	・定期的な安全点検や日々の教育活動の中で、教職員・生徒・施設利用者それぞれが気づいた不備の情報を共有し、改善していく。 ・防火・防災計画、危機管理マニュアルに基づき、不測の事態にも対しても迅速に対応できるようにする。 ・友遊いずみクラブと連携し、学校施設の地域開放を円滑に行えるようにしていく。	【達成状況】 ・保護者の肯定的回答の割合が 91.2%で、数値目標をわずかに上回った。地域住民の肯定的回答の割合は2年連続で100%という高い評価を得ている。 【次年度の方針】 B ・定期的な安全点検や日々の教育活動の中で、教職員・生徒・施設利用者それぞれが気づいた不備の情報を共有し、改善していく。 ・防火・防災計画、危機管理マニュアルを適宜改訂し、適切な運用ができるように職員研修を行う。
6-(2) 学校のデジタル化推進	A20 コンピュータなどのデジタル機器やネットワークの点から、授業（授業準備も含む）を行うための準備ができている。 【数値指標】 教職員肯定的回答 90%以上	・W I F I 環境の有効活用や一人一台端末利用方法等について研修を進め、各教科の授業や総合的な学習の時間、生徒会活動において、積極的に I C T 機器を活用していく。	【達成状況】 ・教職員の肯定的回答の割合は、数値目標をわずかに上回る 90.5%だった。昨年度より 4.4 ポイント上昇した。 【次年度の方針】 B ・W I F I 環境の有効活用や一人一台端末利用方法等について研修を進め、各教科の授業や総合的な学習の時間、生徒会活動において、積極的に I C T 機器を活用していく。 ・I C T 支援員の支援を円滑に受けられる体制を構築し、故障等にも迅速に対応していく。
小・中学校、地域学校共通、本校の特色・課題等	B1 生徒は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 生徒肯定的回答 90%以上	・生徒会を中心としたあいさつ運動、地域学校園の小中合同あいさつ運動の取組を進展させ、あいさつの習慣化を図る。 ・教職員から率先してあいさつすることで、生徒のあいさつへの意識を高める。 ・登下校指導を通して、地域や小学校との結びつきを強め、地域全体であいさつができる雰囲気づくりを行う。	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答の割合は 97.5%で、数値目標を 7.5 ポイント上回った。 【次年度の方針】 B ・教職員から率先してあいさつを行うとともに、生徒会を中心としたあいさつ運動や小中合同あいさつ運動の取組を更に充実させ、地域全体であいさつし合える雰囲気づくりを行っていく。
	B2 生徒は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 生徒肯定的回答 90%以上	・学校のきまりについて、入学時に新入生に対する指導を徹底するとともに、教職員の共通理解を図る。 ・生徒指導部を中心に、日頃から生徒の規範意識を高める指導を根気強く継続していく。 ・<u>きまりやマナーを守って学校生活をしている生徒の姿を称賛し、実践意欲を高める。</u>	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答の割合は 97.3%で、数値目標を 7.3 ポイント上回った。 【次年度の方針】 B ・学校のきまりに関する教職員の共通理解を図り、生徒指導部を中心に、全教職員が足並みを揃えて、日頃から生徒の規範意識を高める指導を根気強く継続していく。 ・きまりやマナーを守って学校生活している生徒の姿を称賛し、実践意欲を高めていく。
	B3 学校は、地域の小学校や高等学校との連携を図ったボランティア活動などを通して豊かな心を育てている。 【数値指標】 生徒肯定的回答 80%以上 保護者肯定的回答 80%以上	・特別の教科道徳や学級活動、総合的な学習の時間を活用し、生徒のボランティア意識を高揚する。 ・地区コミュニティーセンターと連携し、小・中・高校生が共に取り組めるボランティア活動を紹介し、実践できる機会と雰囲気づくりを進めていく。	【達成状況】 B ・生徒の肯定的回答の割合は 79.2%で、数値目標にわずかに届かなかったが、昨年度より 5.0 ポイント上昇している。 ・保護者の肯定的回答の割合は、昨年度から 6.9 ポイント上昇し 86.1%だった、数値目標を 6.1 ポイント上回った。 【次年度の方針】 ・特別の教科道徳や学級活動、総合的な学習の時間を活用し、生徒のボランティア意識を高揚する。 ・地区コミュニティーセンターと連携し、ボランティア活動の機会を設けたり、活動の様子を広く知らせ、参加意欲を高めていく。

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

1 生徒のアンケート結果から

- ・市内中学校平均や本校の昨年度結果と比較しても大きな差はみられなかった。
- ・調査項目B3「地域の小学校との連携を図ったボランティア活動などを通して豊かな心を育んでいる」については、本校の昨年度結果よりも5ポイント上昇し、日々の実践の成果が出ている。

2 教職員のアンケート結果から

- ・調査23項目中、14項目で、本校の昨年度結果を5ポイント以上上回り、昨年度よりも大きな成果を上げることができた。特に道徳の授業や特別活動、総合的な学習の時間で「宇都宮の良さ」や「持続可能な社会」について力を入れて取り組んだ成果が大きく出ている。
- ・調査項目A10「特別な支援を必要とする児童生徒の実態に応じて、適切な支援をしている」とA15「学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる」の2項目で、市平均よりも10ポイント以上下回ってしまい、今後課題を残した。

3 保護者のアンケート結果から

- ・ほとんどの調査項目において、本校の昨年度結果と比較しても大きな差はみられなかった。
- 調査項目B3「地域の小学校との連携を図ったボランティア活動などを通して豊かな心を育んでいる」については、本校の昨年度結果よりも7ポイント上昇し、この項目に関して、生徒・保護者共に肯定的評価をしている。

4 地域住民のアンケート結果から

- ・調査23項目中、21項目で肯定的回答100%という非常に高い評価を得ている。日頃から地域社会と連携し、HPや学校だより等で情報発信に努め、様々な教育活動に取り組んできた成果と言える。

5 今年度の重点目標から

- ・専門職としての自覚を高め、常に組織的な対応に努める。
- ・子どもと向き合う時間を確保するために、校務の工夫改善及びスリム化を図る。
- ・教職員の時間管理を徹底し、勤務時間を意識した働き方を推進する。
- ・総合的な学習の時間などで、ESDの理念を生かした学習活動を取り入れる。

6 小中一貫教育・地域学校園の取組から

- 調査項目A17「小中一貫教育・地域学校園の取組」については、
- 調査項目B3「地域の小学校との連携を図ったボランティア活動」については、生徒・保護者・教職員の肯定的回答割合が本校昨年度結果よりも5ポイント以上向上しており、成果が出ている。地域住民からは昨年度に続き肯定的回答割合100%という非常に高い評価を得ている。

7 学校関係者評価

- ・授業を見させてもらう中で、生徒は落ち着いて学習に取り組んでいたと感じた。また、あいさつも良くてきている。
- ・学校全体で教職員・生徒共に明るく活動していると感じている。
- ・チームで仕事を同じ方向に向かわせることに苦慮すると思うが、根気よく声掛け等を行ってほしい。
- ・休みがちな生徒に対して心のケアをよりお願いしたい。
- ・部活動の練習時間は、柔軟に行ってもらいたい。
- ・生徒は積極的にボランティア活動に取り組み、とても元気があり良いと思う。
- ・もっと多くの生徒がボランティアに参加できるように、ボランティア募集情報がより多くの生徒に伝わる仕組みと機会を作っていくと良いと思う。
- ・地域行事のボランティア参加を通して、中学生と接する機会があり、素晴らしい生徒だと感じている。同じ地区に住む住民として誇らしく思う。
- ・地域行事に、ボランティアとして参加することだけではなく、地域行事そのものに参加することも地域貢献になっていることを生徒に教えてほしい。多くの地域行事に、たくさんの生徒に参加してほしい。
- ・あいさつ、清掃、ボランティア活動、SDGsの取組など、素晴らしい活動をいろいろな形でPRしてほしいと思う。自治

会でも話題に出し理解と支援をアピールしていきたいと考えている。

- ・SDGsをもっと前面に出した活動をしていてもらいたい。
- ・教職員が生徒のがんばりや取組を認めている点が良いことだと思う。
- ・生徒の評価と教職員の評価に大きく差がある点については、生徒の評価の背景や理由などを分析し、今後の学校の取組に生かしてもらいたい。
- ・アンケートの実施やアンケートの結果にこだわりすぎることなく、学校運営を進めていただけたらと思う。また、地域としても学校に負担のない範囲で協力できることを模索し、実施に結びつけていきたいと思う。
- ・小中合同で取組める行事等、今後も連携していければと思う。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- ・ほとんどの調査項目において、肯定的回答の割合が、「本校の経年比較」や「市平均との比較」から見て、概ね良好の結果が出ている。今後も、生徒一人一人に寄り添った指導を通して、豊かな人間性の育成や確かな学力の定着を目指し、生徒、保護者、地域の信頼を高められるように、教職員が一丸となって努力していく。
 - ・調査項目の中には、回答者の立場によって評価が分かれる傾向が見受けられるものもあるので、その原因を分析し、どの立場から見ても評価に大きな開きが出ないように取り組み方を工夫・改善していく。
 - ・総合的な学習の時間や生徒会活動を中心にESDの理念を取り入れた教育活動を展開し、日常生活の中で、持続可能な社会を意識しながら、自分たちにできることから積極的に取り組んで行けるように支援する。
 - ・3年生を送る会など、生徒会活動において、ICT機器を効果的に活用することで、生徒がいきいきと活動する姿が随所に見受けられている。次年度は、学校行事を含む様々な場面でのICT機器の効果的な活用方法を研究し、生徒主体の活動の場を増やしていく。
- 「時と場に応じたあいさつ」を更に定着させていくために、生徒会と小学校の児童会を中心に地域学校園内での連携を図りながら、あいさつ運動を活性化していく。
- 小・中・地域との連携を強化し、地域の人材や資源を有効活用して、地域に開かれた学校として歩んでいく。